

(事業者名) 学校法人藤田学園 藤田医科大学

(事業名) 対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的モニタリング

サービス概要 (イメージ)

- ・対話型ツールを用いて、健康・生活機能を**持続的にモニタリング**
- ・対話型ツールが**個々人に合った情報を提案**

1. 対話型AIとの自然な対話から健康状態や生活状況に関する情報を取得

見守りサービス「安心日記®」を利用

2. 取得した情報を蓄積・統合・分析し、健康リスクを早期発見

	Day 1	Day 2	Day 3	...	Day 20	Day 21	Day 22
Q 1	1	1	1	1	1	0	1
Q 2	0	0	0	0	0	0	0
Q 3	1	0	0	0	0	0	0
...							
Q 23	0	0	0	0	0	0	0
Q 24	1	1	1	1	1	1	1
Q 25	0	0	0	0	0	0	0
フレイルスコア	18	17	17		17	16	16

フレイル関連因子のモニタリング
日常会話の中の設問の回答から、日々のフレイルスコアを算出

3. リスク早期発見後、個人の状態に合わせて必要な情報を提供

対話型AIからの情報提供
個人の趣味嗜好や健康状態に合わせて、対話型AIが、健康活動、地域活動・イベント、行政サービスの情報を提供

連携団体を含む、実証の座組

・医学的エビデンスに基づいた実証の推進
・研究成果の学術的な情報発信

・市内での実証における
関連部署との調整

・サービスの開発・改良
・サービスで取得した情報の分析

・実証の計画立案・管理

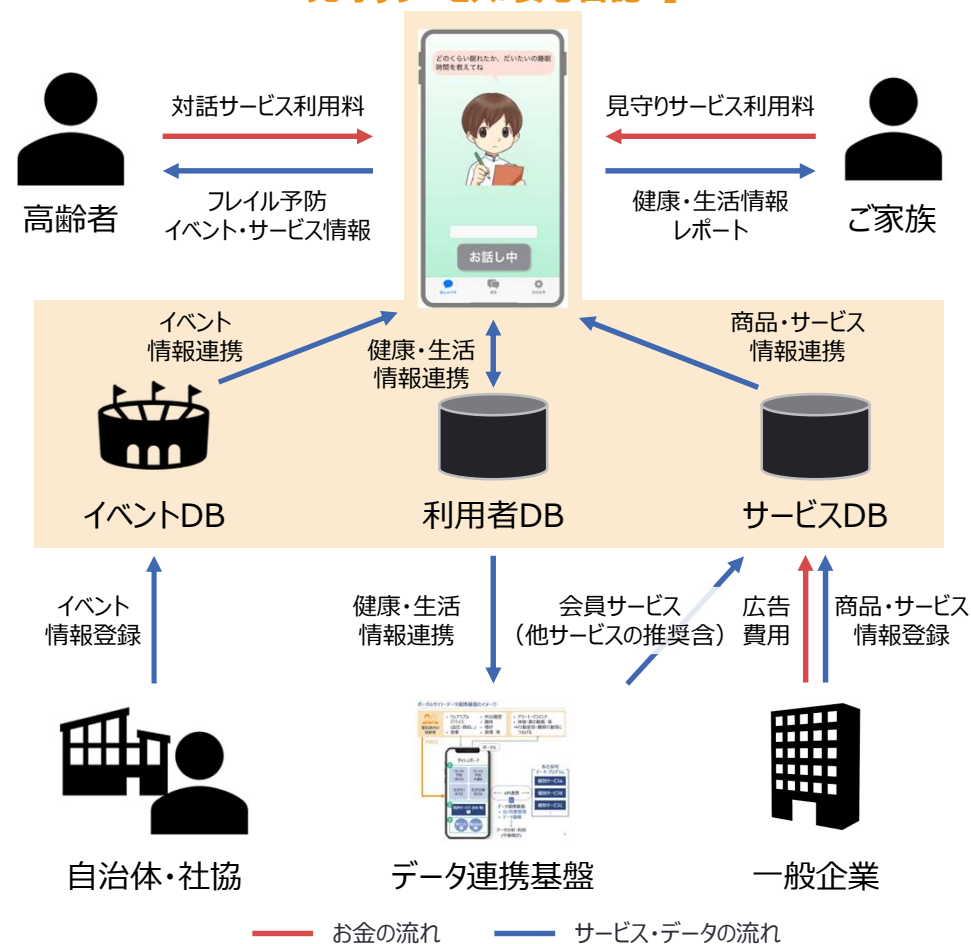
(事業者名) 学校法人藤田学園 藤田医科大学

(事業名) 対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的モニタリング

社会実装時の事業モデル

高齢者本人、もしくは高齢者家族を対象としたサブスクリプション型ビジネスを想定
※一般企業の商品・サービスの広告ビジネスで、サービス利用料の負担軽減も検討

見守りサービス「安心日記®」



今年度の実証項目 (昨年度の実証成果含)

① 昨年度の実証成果

目的：サービスの受け入れに関する意見聴取、サービスのUIや対話機能の評価
対象：地域在住高齢者67名（70歳未満16名、70歳代29名、80歳代17名、90歳以上2名、未回答2名）
内容：豊田市役所に来庁された高齢者に、サービスの一部機能（自由対話、フレイルチェック機能、健康行動提案機能）を体験していただいた
結果（アンケートの各設問の肯定的な回答の割合、4点中3点以上）：
・設問「自身の健康状態の把握に有効そうか」：80.0%
・設問「同サービス进行操作できそうか」：83.9%
・得られた具体的な意見：「毎日の対話は刺激になってよい」「画面のタッチはスーパードなどで慣れているため難しくない」「一人で操作できるか不安」など

今年度の実証項目

② 誰に対して

地域在住高齢者（20名程度）

③ どれくらいの期間

最短：2日間程度、最長：2か月間程度 ※期間別で複数回実施予定

④ 何を検証するため

サービスの受け入れおよび操作性（実証期間中に、どの程度サービスを利用されるか、適切に操作ができるかなどを評価）

⑤ どのような実証

地域在住高齢者に、実生活の中でサービスの各種機能（日記機能、自由対話、フレイルチェック機能、健康行動提案機能）を利用いただく。受け入れや操作性をアンケートおよびサービス操作ログ情報から評価する。